防災リテラシーを「本物体験」から学び、生きる力を育む

ネイパル北見　リアル防災キャンプ　厚岸・山小屋

1　事業のねらい

災害に関する知識を取得するとともに実際にライフラインのないリアルな環境下で、防災リテラシーを学び、防災力を高める。

2　事業の概要

■期日　R6.10.12(土)～14(月・祝)　２泊３日
■対象　小学３年生～6 年生
■人数　９名
■場所　ネイパル北見・山小屋らんぷのいえ・ネイパル厚岸

3　プログラム

日時	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	泊
10/12（土）				受付	開会式	移動準備	【バス】北見⇒厚岸・山小屋 ①美幌峠：持参食 ②途中弟子屈町で買出し（夕食）					防災食 de 夕ごはん		自由時間	明日の準備 ふりかえり	就寝準備	就寝	山小屋
10/13（日）	起床	防災食 de 朝ごはん	清掃点検	荷物積込	Walk to ネイパル厚岸 徒歩帰宅体験！防災マップ（10km） （移動途中で、各班ごとに町内にて自由昼食）							装備片付け 自由時間	夕食	入浴	ふりかえり	自由時間	就寝	ネイパル厚岸
10/14（月・祝）	起床	愛冠岬散歩	朝食	清掃点検	【バス移動】 ネイパル厚岸⇒ネイパル北見 ※途中　昼食（弁当）				ふりかえり	閉会式	解散							

4　ねらいを達成するための活動の工夫

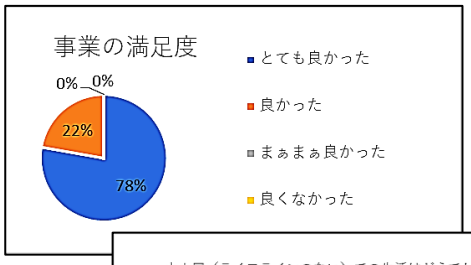
■リアルな防災を体験するために山小屋を利用したプログラム構成
・実際に災害が起きた時に生じるライフラインのない生活や衛生面の問題を認識するため、山小屋の汲み取り式トイレの使用やハイゼックス袋とアイラップを使用した防災食作りを設定
・帰宅困難時を想定した 10ｋｍ徒歩移動を実施し、災害時に必要となる周囲の観察力を養うため、移動中利用できる公衆トイレマップ作成も行い、防災リテラシーを学べる活動を取り入れた。
■災害時の衛生面について考える
・日本トイレ研究所がまとめた、能登半島地震でのトイレの状況や地震を体験した方の言葉をラジオで聞き、災害時に起きる問題について考えた。

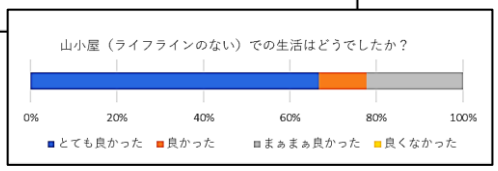
山小屋での朝食

帰宅困難時を想定した徒歩移動

5　事業の評価

■電気や水道がないと、とても不便で普通の生活のありがたさに気づいた。でも不便なことも楽しかった。
■１０ｋｍ歩くのはとても大変だった。だからこそ本当の避難時こそ楽しいことを見つけられるといいと思った。
■災害が起きたら、今回よりも大変だというのが身に染みた。
■災害時のトイレと比べると、山小屋のトイレはまだ良かった。
■不便な生活に慣れると、いざというときにとても役立つと思う。
■家に帰ったら、非常時持ち出しリストを見直す。





6　ねらいを踏まえた成果と課題

●リアルな体験をすることが、実際に災害があった場合の備えとなることが、振り返りからも読み取れ、より防災に対する意識が高まった。
○今回の参加者の声から、避難する際の持ち出し袋や楽しむための工夫などあらゆる視点から防災を意識できる工夫をもっと取り入れることが必要である。

企画のポイント

ライフラインのないリアルな生活や、帰宅困難時を想定した 10 ㎞徒歩移動を実際に体験し、防災リテラシーを学ぶ場の設定